

くすの末

2024年11月

100号

令和6年10月1日に県立図書館は
開館50周年を迎えました!

昭和49年に開館した兵庫県立図書館は、今年度、開館50周年を迎えました。

開館当初は県内の図書館等をサポートする「図書館のための図書館」の機能を軸に置いて、業務を開始し、昭和51年から利用者の在住地域の市町立図書館で県立図書館の資料を受け取れる「協力貸出サービス」等を提供してきました。その後、平成7年1月17日に阪神・淡路大震災を経験しましたが、その被害も乗り越え、平成13年から利用者の皆様のニーズに対応する形で直接貸出を開始、平成22年からは県内の学校の調べ学習等を支援する「学校サポートプロジェクト」を実施しています。令和5年4月から電子書籍の供用を開始し、翌年1月からWeb上で利用登録申込を可能にするなど非来館型サービスの向上にも取り組んで参りました。

これからも県民の皆様により良いサービスを提供できるよう邁進して参ります。

県立図書館開館50周年記念式典等を開催しました

10月21日(月)に当館で開館50周年記念式典及び作家玉岡かおる氏によるトークイベント※を開催しました。 ※トークイベントの詳細は、次ページ参照

県関係者、図書館関係者など多数の来賓の方、定員を超える応募があったため抽選で当選した県民の方、合わせて132名(パブリックビュー参加含む)にご出席いただきました。式典は、主催者を代表して藤原俊平教育長の挨拶から始まり、来賓を代表して兵庫県議会文教常任委員会北上あきひと委員長から祝辞をいただいた後、当館が歩んできた50年間で映像で振り返りました。

式典・トークイベント終了後に、一般開放されていない当館の書庫等を見学していただく「バックヤードツアー」を開催しました。参加者の皆様は普段見ることのできない場所を興味深くご覧になっていました。



パブリックビューイングの様子



来賓代表挨拶の様子



バックヤードツアーの様子

もっと伝えたい 兵庫県立図書館

活動報告

10/21

県立図書館開館50周年記念トークイベント

8/29~8/30 インターンシップ

11/7 連続講座

「ひょうご五国の城に迫る!~淡路編~」

県立図書館開館 50周年記念トークイベント

10月21日の県立図書館開館50周年記念式典の後に「お家さん」、「天涯の船」などで著名な作家である玉岡かおる氏によるトークイベントを開催しました。

「書籍の森で時間を止めて」というテーマで海外の様々な図書館の写真を交え、紙の質感やページをめくる音など、紙の本ならではの良さを五感で感じることや、図書館空間を味わう楽しさを伝えていただきました。50周年記念にふさわしい、意義深い講演となりました。



インターンシップ

兵庫県では県立高等学校生徒が、自己の将来の在り方や生き方について考え、目標を持って主体的に進路選択ができるようにするため、「県庁インターンシップ」を実施しています。

今年度のインターンシップ生、4名による図書展示をご紹介します。

今年度は台風の影響で2日間だけの実施でしたが、企画から選書、レイアウトまですべて自分たちで行い、飾りつけも作成しました。



「ニャンてワンダフルな生き様紹介! ~その物語にウルッフと来ちゃうピョ~」

10月4日の「世界動物の日」に因んで、私たちが好きな犬、猫、鳥、オオカミの4種類の動物の図鑑や物語を集めました。知っているようで知らない、これらの動物の生態や習性を紹介します。そして、日マストレスを感じている方も、これらの動物たちのお話を読んで感動し、癒やされてほしいと思い選書しました。

年齢を問わず楽しめる展示内容で、多くの利用者様よりご好評いただきました。

※展示は10月20日をもって終了しました。

連続講座「ひょうご五国の城に迫る!~淡路編~」

「のろしから灯台まで 淡路の要衝 岩屋に迫る!」

11月7日に第1回連続講座講義として、淡路市教育委員会 社会教育課 文化財係の工藤 祥子 氏に「のろしから灯台まで 淡路の要衝 岩屋に迫る!」というテーマで講義をしていただきました。

講義は、淡路市の岩屋にあった俎板山城と絵島ヶ丘城、徳島藩松帆台場跡城跡を中心に講義くださいました。岩屋は歴史的に交通の要所であることも学びました。工藤氏の淡路の歴史愛が伝わってくる講義内容に参加者の方も熱心に聴講されていました。



講座・イベント一覧
11月 - 2月 参加無料!

11月28日(木)

第2回連続講座「ひょうご五国の城に迫る! ~淡路編~」

- 講師 洲本市教育委員会
金田 匡史 氏
- 時間 13:30~15:00
- 場所 県立図書館第2研修室

※オンラインでの受講が可能です。
受講用の URL をメールで 送りますので、講座開催日の1週間前までに申し込みをお願いします。

12月8日(日)

しょくぶつ探検

- 講師 兵庫県立人と自然の博物館
小舘 誓治 氏
- 時間 13:30~15:30
- 場所 第2研修室および明石公園
- 内容 明石公園内で松ぼっくりや綺麗な葉っぱなど、自分だけの宝物を採集し、兵庫県立人と自然の博物館研究員と一緒に植物観察および調べ学習等を行います。
- 対象 小学生とその家族 10組
(未就学児の参加も可能)

2月6日(木)

サイバーセキュリティー研修

~騙されないうちに知っておきたいこと~

- 講師 兵庫県警察サイバーセンター
担当警察官
- 時間 13:30~15:00
- 場所 県立図書館第2研修室
- 内容 インターネット上の様々なリスクを知り、身を守る術を警察官の方から学びます。

講座・イベントおよび展示の詳細
や参加の申込み方法については
当館ホームページなどで公開しま
す。お楽しみに!



兵庫県立図書館HP



Facebook



X(旧Twitter)



Instagram

展 示



兵庫県立図書館開館50周年記念
貴重な資料で振り返る50年展

大閲覧室 ~R7 3/19

50年前に出版された図書、図書館の貸出しベスト50など、「50」に関連した資料や、兵庫県立図書館にしか所蔵のない資料、巻物など普段目にする事ができない貴重な資料等を展示します。

兵庫県立図書館開館50周年記念

この50年をふりかえって
~ヴィジュアルで迎える50年の軌跡~

大閲覧室 ~R6 12/13
当館が歩んできた50年間の流行や世相、歴史的な出来事を図書やレコードジャケットなどのグッズで振り返ります。昔と今の漫画雑誌や電話機のパネル等を掲示し、視覚的に時代の変遷を感じられる内容にしています。



ノーベル賞関連展示

大閲覧室 ~R6 12/18
2024年のノーベル賞が発表されました。この展示では、生理学・医学賞、物理学賞、化学賞、文学賞、平和賞、経済学賞の、それぞれの受賞内容に関連がある図書をまとめています。また、ノーベル賞を取るためのヒントになる資料も展示しています。

兵庫県立図書館開館50周年記念
図書館と同一年の郷土資料たち

大閲覧室 ~R6 12/13
開館50周年を記念し、郷土資料の中から、昭和49年度に発行された図書館資料や、開館当時に県内で発行された広報誌などを展示します。



2024ひょうご本大賞

大閲覧室 ~R6 12/18

兵庫県にゆかりのある著者または兵庫県が舞台の小説から、県内読者に読んでほしい本を選ぶ「ひょうご本大賞」が毎年開催されています。この度、今年の最終ノミネート作品が発表されましたので、選ばれた4作品とその関連資料を展示します。

Coming Soon!

- 大閲覧室 12/20~3/19 振り返れば50年展(仮)
12/20~2/19 干支のアラカルト
1/19~3/20 昭和のくらし
- ふるさとひょうご情報室 12/20~3/19 阪神・淡路大震災30年
12/20~3/19 ひょうごゆかりの作家50人

県立図書館からのおススメ

職員おススメ本①

『旅をする木』

当館請求記号：295.39/12

著者：星野道夫

出版社：文藝春秋

出版年：1999.3



アラスカの大自然に魅了された写真家・星野道夫によって書かれた、心温まるエッセイ集です。アラスカでの生活、様々な人々との出会い、目の前に広がる圧倒的な自然。本のページをめくるたびにその雄大さが伝わり、いつか行きたい、今読んでいる景色を実際に見てみたいと思わされます。大自然の中では、人間などちっぽけな存在に過ぎないことが記されているのも、この本の良さなのではないかと思えます。本を読むだけでアラスカ旅行を疑似体験できるそんな一冊です。

職員おススメ本③

『気はやさしくて力持ち 子育てをめぐる往復書簡』

当館請求記号：367.3/389

著者：内田 樹 三砂 ちづる

出版社：晶文社

出版年：2023.10



現在幼子を育てる一読者の私は、思考も視野も狭まっているな、という危機感を抱くときがあります。目の前のことに真っ向から対峙しているからこそとも言えようが、果たしてそれが子どもの育ちにとってよいことなのか、悩むこともしばしばあります。

そんな折、フランス文学者・内田樹氏と、疫学者・三砂ちづる氏による本書と出会いました。内田氏の書簡の中に「複雑な現実には複雑なままに扱う方が話は早い」という一節があります。私は「なるほど!」と膝を打ちました。「眠いのに寝ず、なおかつ眠いとぐずること」や「自分で食器をひっくり返したのに、食べ物がないと怒ること」といった、大人の論理では理解しがたい子どもの生態が、この考え方なら何とか飲み込めそうと思いました。ミクロな視点になりがちな私を、マクロな視点へ導いてくれる、本書はそんな一冊です。

職員おススメ本②

『グレーゾーンの歩き方』

当館請求記号：493.7 / 1281

著者：成沢真介

出版社：風鳴舎

出版年：2022.10



この10年間程でメディアやマスコミ、SNSや書籍等で発達障がいやグレーゾーンが取り上げられたり発信されたりする機会が増え、「発達障がい」という言葉の認知が徐々に浸透してきました。

この本は、10の物語で構成された当事者のエピソードが親しみやすいイラストとともに盛り込まれており、読者はまるで冒険をするかのように個々の具体的な特性への理解を深めることができます。冒頭の「特性逆引き目次」から効率的に気になる項目だけを探すことも可能です。

あなたも「オイルサーキットグランプリ」に出場中、「時間のない公園」や「切り裂きジャックの潜む街」にいるかもしれません。この本を読んで確認してみたいかがでしょうか。また、発達特性は強弱がありつつも、誰にでも当てはまるものであるため、当事者やグレーゾーンの疑いがある方はもちろん、全ての人に手に取って読んで頂きたい1冊です。

職員おススメ本④

『骨董病は治りません』

当館請求記号：756.8/K1

著者：武田 良彦

出版社：神戸新聞総合出版センター

出版年：2022.11



神戸の骨董品店でそば猪口と出逢ったことをきっかけに、「骨董病」にかかってしまった著者。見つけた品物に惚れ込む「発作」を起こしては、ひとつ、またひとつとコレクションを増やしていきます。

和同開珎、甲骨文字らしきものが刻まれた動物の骨——骨董品を手に入れたからには、その真贋や価値を確かめたくなるもの。数々の品と向き合っては謎を解き明かし、結果に一喜一憂する日々が綴られています。クスリと笑えて、骨董品の持つロマンを感じることできる1冊です。骨董品に興味のないあなたも、読めば「骨董病」に感染するかもしれませんよ…?



【開館時間】 9:30~18:00

【休館日】 毎週月曜日・毎月第3木曜日・12月14日~1月3日（今年度のみ）
特別整理期間（6月頃 1週間程度）

【アクセス】○JR明石駅、山陽明石駅で下車、北へ800メートル（明石公園内）
○当館に専用駐車場はありません。お車でお越しの際は、公園内または近隣にある有料駐車場をご利用ください。

【ホームページ】 <https://www.library.pref.hyogo.lg.jp>

兵庫県立図書館 TEL 078-918-3366 / FAX 078-913-9229

TEL 078-918-3377（調査相談）